

松之梱包(金子香恵社長、神奈川県厚木市)は、貨物運送事業やレッカー事業に加え、作業時間を短縮できる大型レッカーの販売事業を推進する。販売先の第1号として、トラックの架装や修理を手掛けるヒラテック(平山一三社長、厚木市)が導入し、新たにレッカー事業を5月から開始。故障

松之梱包

車両のけん引だけでなく、修理も行う付加価値を提供し、利用拡大につなげる。

松之梱包は運送事業に加え、2008年から「スターレッカー神奈川」としてレッカー事業を推進。併せて、同社が導入している欧州メーカーの大型レッカー「トリーングレッカー車」の販売も2016年から始

大型レッカー販売推進

作業時間 従来の3分の1以下



めた。

通常、大型車をけん引する場合はアクスル(車軸)を持ち上げるが、トリーングレッカー車はタイヤごと持ち上げられるアタッチメントを採用。このため、作業時間を従来の3分の1以下と大幅に抑えられる。リモコンでの操作ができるため、更なる負担軽減も図れ

レッカー車を背景に記念撮影に臨むヒラテックの平山社長(中央)ら

る。

松之梱包のトラックの修理を行うなど、以前から同社と親交があったヒラテックの平山社長は「レッカー事業を行うのが夢

だった。(松之梱包のレッカーの導入は)作業のスピード感が決め手になった」と説明する。6600平方

メートルの同社の駐車場を活用し、このうち半分程の敷地をレッカー事業に利用する考え。事業の対象エリアは、関東一関西まで広く対応し、まずはドライバー2人を配

業の拡大も視野に入れる。車両はいすゞ自動車の「ギガ」を採用。いすゞ自動車首都圏・神奈川県支社の遠藤裕之金沢支店長は「制御装置などの電子化が進んだことで、トラックの故障理由がすぐに分

らず、レッカーを利用するケースは多い。今後必要は増えるだろう」と指摘。その上で、「ヒラテックや松之梱包のようにけん引に加え、修理や運送といったサービスも提供できるのは強みになる」と話す。

金子社長は「自社の故障車両をけん引する目的でレッカー事業を始めたが、今回、ヒラテックに導入してもらい、素敵なレッカーができてうれしい。走り回ってアピールして欲しい」と話している。(土屋太朗)

催 遠州トラック

ライバーズ藤枝校(静岡県藤枝市)が協力。操作及び走行の正確性やスピード、マナー、知識レベルなど各項目を慎重に確認し審査。その結果、優勝は小島啓選

手(掛川営業所)に輝いた。準優勝は竹原辰拓選手(本社倉庫課)、3位は百々晃瑞選手(藤枝営業所)だった。(奥出和彦)

アサヒ ドライバリーフトコン

野口・藤田の両選手

ない。パートナー企業を合め、こうした意識を共有し

日本パレット協会

生産数量 8.7% アップ

日本パレット協会(山崎和彦会長)が5月28日の総会で報告した2017年度数量は前の年度比8.7%増の6927万8046枚

に伸びた。B to C(企業消費者)ビジネスの隆盛や大型物流施設の相次ぐ竣工などが寄与した。

素材・種類別の生産数量を見ると、木製パレットは新品が10.8%増の4517万7461枚と増えたのに対し、リサイクル品は15.4%減の227万8391枚と減少。一方、プラスチック製は、新品が8.8%増の1359万9578枚、リサイクル品は4.4%増の228万1097枚といずれも増えた。

また、金属製パレットが12.5%増の242万3091枚、紙製パレットは2.5%増の189万8628枚となっている。

なお、レンタルパレットの保有数量は2.2%増の2118万6283枚と、プラスチック製を中心に増加。国内のパレット流通量は5億枚と推定されるため、全体の4%程度をレンタルパレットが占めている模様だ。ただ、欧米ではシェア率が10%を超えていることから、市場の拡大余地は大きいとみられる。(沢田顕嗣)

タルパレットを利用した際の環境負荷軽減効果を算出